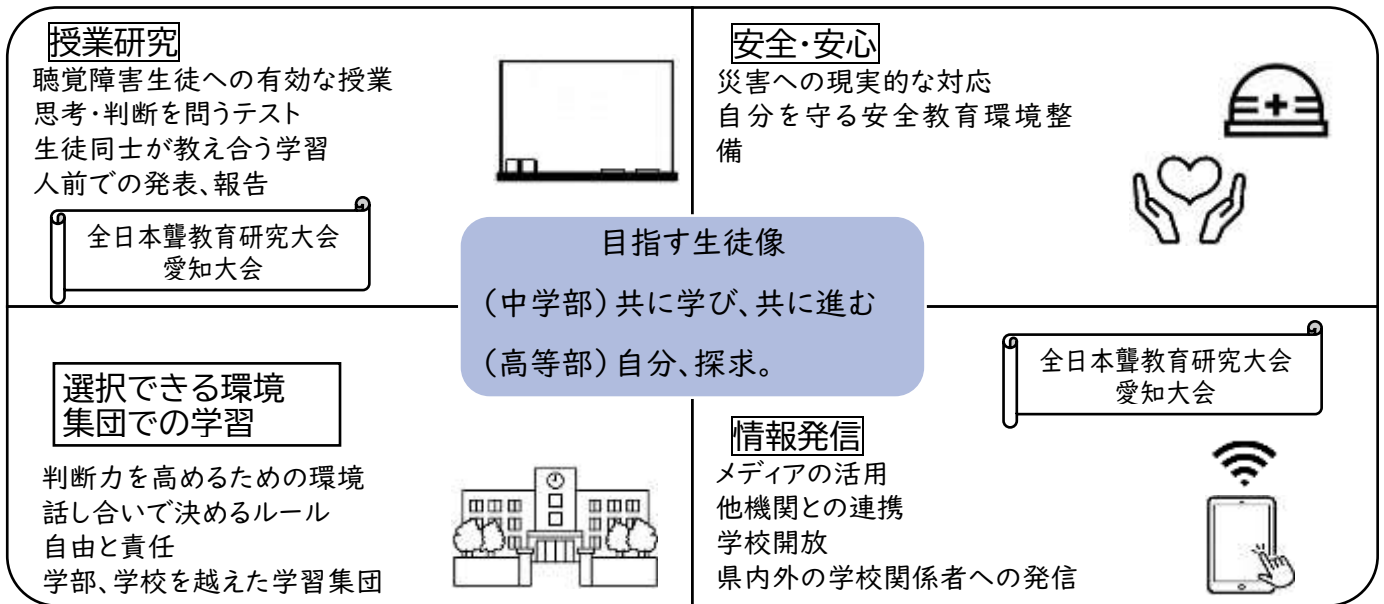


令和4年度学校評価

1 本校の重点目標



今までどおりではない新しい発想

2 評価対象

- ・各部（教科、学科の内容も含める）
- ・各分掌
総務、教務、教育情報、生徒指導支援（いじめ防止基本方針に基づく取組を含む）、進路指導
保健体育、自立活動研修
- ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況（教頭）

3 令和4年度学校評価 評価結果と課題

(1) 研究授業

授業づくりのポイントや指導案の作成例などをまとめた冊子を作成し、職員に配付した。授業でのICTの活用や話し合い活動を取り入れるよう助言し、授業改善につなげた。今後も冊子を使いやすいよう改善し、授業力向上を目指す。

本年度、愛知県で行われた全日本聾教育研究大会に関連して、前年度よりも研究研修の機会を多く設定した。また、全職員が授業を見合うことができる研究授業を計画し、実施をした。十分に時間を確保できない研修・学習会があり、内容の精選や効率的な研修会が課題である。

(2) 安心・安全

消防局の協力を得て、中学部の生徒を対象としたNET119の模擬通報体験を実施した。防災の日には災害用伝言板の体験利用を実施した。年3回のシェイクアウト訓練では、生徒への告知を徐々に減らして実施した。今後は火災・地震避難訓練における生徒への告知方法が課題となる。

生徒指導支援部と保健体育部が連携し、9月1日の防災の日に非常食の喫食体験を実施することができた。来年度からの入学生徒は全員非常食を購入する方向で進めている。

(3) 選択できる環境、集団での学習

中学部では、学級や授業の中で新聞等を用い、使われている言葉の確認をすることで言語力向上に努めた。昨年度に比べ、タブレットを活用した調べ学習や話し合い活動が増えた。今後は調べ学習の際には生徒自身が情報を取捨選択できるように支援をしてきたい。

高等部では、大学、企業、高校との連携を取り入れた活動を多く実施することで、手話だけでなく筆談や情報機器を用いて、相手に伝わるコミュニケーションを工夫することができた。授業においてタブレット端末をよく活用し、情報保障としてだけではなく、個々で課題を進めたり意見交換で使ったりすることができた。

(4) 情報発信

掲示の担当を見直し、学科の発信（職員室前）を加えたことで、積極的に掲示や展示の更新がされるようになった。進路の情報、聴覚障害に関する情報についても掲示内容等を見直し刷新をした。聴覚障害に関する情報は、次年度以降、職員や生徒のタブレットの活用を検討していく。

保護者向け企業見学会を再開し、就労に関して広く知っていただく機会として、企業見学会等の情報をメールにて該当学年に周知した。学校開放日の事業所の参加はごく一部に限られたが、それ以外の日で事業所から学校見学の依頼をすることが増え、実習等に繋がられた。進学、就職に関し、保護者にとって有意義な情報の発信が次年度の課題である。

PTA 活動を進める際、メールを利用して保護者と連絡を取るようにすることで、意見交換をしやすくなった。

学校ホームページを刷新し、見やすい内容にした。note や Instagram の SNS を活用し積極的・即時的に本校の魅力を発信した。SNS の活用に意欲的な職員と共に、投稿を増やし、閲覧者数を増やしていきたい。

地域の消防署と連携した防災訓練が続けられるよう、地域との繋がりを引き継いでいくための情報発信が課題となる。

4 学校関係者評価委員会での評議員の方より

- ・愛知総合工科高等学校はとてもきれいなところだった。機械科の生徒は少ないと思った。
- ・ランドデザインを掲げているが、全ての生徒がこの目標に馴染むわけではない。その点は留意が必要である。型に入れようとするとその人の評価が下がることもある。
- ・指導案の作成例、個々の事例を積み重ねエーターベースにしていくとよい。経験したことがないことが起こったときに過去の例を見ると参考になる。
- ・他校との連携は是非、継続・拡大していただきたい。特に大学生が障害のある人と関わることは意義のあることだ。
- ・保護者アンケートの回収率を上げる手だてを考えてほしい。結果と改善点のフィードバックとして、保護者とのコミュニケーションを継続させることが大切である。
- ・子供には良い環境で学習に取り組んでほしい。手話ができなくてもどうしたら伝わるかという熱意をもって授業してほしい。
- ・型にはまた授業ではなく、個々に合わせた授業をお願いしたい。
- ・保護者と学校のコミュニケーションは大切。意見があればいつでもどうぞと学校には言ってもらいたい。
- ・交通途絶などが起きた場合の対応について、各交通機関などにどのように対応しているのか確認するとよい。電車で長時間になると気分が悪くなることもある。そういった場合、どのように対応も必要である。

【参考・再掲】各部、校務ごとの評価結果と課題一覧

部・校務	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
中学部	・主体的・対話的な学習の基礎となる言語力のさらなる向上を図る。	・新聞等教科書以外の教材を活用し、より多くの言葉に触れられるようにする。 ・タブレット等を活用し、生徒自ら調べたり、発表したりする活動を積極的に取り入れ、生徒同士が学び合える場面を設定する。	・学級や授業の中で新聞等の資料を用いて指導を進めた。資料の中で使われている言葉の確認等を適宜行い、言語力向上に努めた。 ・昨年度よりもタブレットを活用した調べ学習や話し合い活動が増えた。今後も言語力の向上に努め、調べ学習の際には生徒自身が情報を正しく取捨選択できるように支援をしてきたい。
高等部	・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、聴覚障害に配慮した授業実践を行う。	・内容を暗記するだけでなく、対話を取り入れた活動や地域連携を含む実習等の中で思考力やコミュニケーション能力を育む授業を展開する。 ・タブレット端末、モニタを含めた情報機器を適切に活用し、ICT教育の充実を図る。	・大学、企業、高校との連携を取り入れた活動を多く実施することで、手話だけでなく筆談や情報機器を用いて伝わるコミュニケーションをそれぞれが工夫できた。 ・授業においてタブレット端末をよく活用し、情報保障としてだけではなく、個々で課題を進めたり意見交換で使ったりすることができた。
総務部	・生徒にとってより良い学校づくりに努める。	・役員会や懇談会等における保護者との情報交換を通して、学習環境および学校生活の改善を図る。 ・生徒の目につきやすい掲示版を用いて積極的に情報を発信する。	・総務のアドレスを利用して保護者と連絡を取るようになることで、些細な意見も発信されるようになり、意見交換しやすくなった。 ・掲示の担当を見直し、学校掲示に学科の発信を加えた所、積極的に掲示や展示の更新がされるようになった。
教務部	・生徒が、主体的に学習に向かう意欲を引き出す授業づくり、授業改善を行う。	・学習指導案や年間指導計画作成の際に、ICT機器や視覚教材、話し合い活動を効果的に取り入れられる場面を積極的に提案していくことで、機器の活用や授業改善ができるようにする。	授業づくりのポイントや指導案の作成例、チェック表を掲載した冊子を配付し、活用できるようにした。指導案の確認の際に、ICTの活用や話し合い活動を取り入れるよう助言し、授業改善につなげた。今後もさらに冊子を使いやすいよう改善し、授業力向上を図っていく。
教育情報部	・本校の教育や様々な取り組みについてアピールし、知名度を上げる。	・従来から活用している学校ホームページや動画配信サイトのほかに、SNSやメディアプラットフォームを組み合わせ、これまで伝えられてこなかった本校の魅力を届ける。	学校ホームページを刷新し、見やすい内容にした。noteやInstagramを活用し積極的・即時的に本校の魅力を発信した。SNSの活用により意欲的な職員と共に、閲覧者数を増やしたい。
生徒指導支援部	・教職員、生徒の防災意識の向上を図り、より実践的な訓練を計画・実施する。	・地域の消防局や消防署と連携し、体験的な訓練を実施する。 ・保健体育部と連携し、非常食の喫食体験を行う。 ・生徒への告知回数を徐々に減らしていき、実際に即した訓練を実施する。	・地域の消防署と連携した訓練を実施することはできなかったが、消防局の協力を得て、中学部の生徒を対象としたNET119の模擬通報体験を実施した。地域の繋がりを引き継いでいくことが今後の課題である。 ・防災の日に災害用伝言板の体験利用及び保健体育部と連携した非常食の喫食体験を実施した。 ・年3回のシェイクアウト訓練では、生徒への告知を徐々に減らして実施することができたが、火災・地震避難訓練では、生徒への告知方法が今後の課題である。

部・校務	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
進路指導部	・適切な進路選択に向けた情報発信の充実を図る。	・生徒や保護者が、事業所、大学等の資料をより見やすい形で閲覧できるように、掲示・伝達方法を工夫する。 ・学校開放日への事業所等の参加を呼びかけ、生徒の活動をアピールし、実習等の教育活動へ繋がられるようにする。	・校内掲示を一部見直し、掲示場所や内容を刷新した。また、企業からの見学会等の情報について、メールにて該当学年に周知した。 ・保護者向け企業見学会を再開し、就労に関して広く知っていただく機会とした。 ・学校開放日の事業所への参加はごく一部に限られたが、それ以外の日での学校見学の依頼が多くあり、実習等にも繋がられた。 ・進学、就職に関し、保護者にとって有意義な情報の発信が不足していた点が次年度の課題である。
保健体育部	・災害に対する意識の向上を図る。 ・災害時への現実的な対応を知る。	・防災教育を兼ねて、給食で非常食を提供できるようにする。寄宿舎でもできることがないか検討していく。 ・生徒指導支援部と連携し、防災訓練の日等に設定できるようにする。	・給食での非常食提供はできなかったが、生徒指導支援部と連携し、9月1日に非常食を食べる体験を実施することができた。 ・令和5年度からの入学生徒に関しては、全員非常食を購入する方向で進めている。
自立活動研修部	・教職員が相互に学び高め合える研究・研修の充実を図る。	・積極的な教員相互の授業参観の実施を促す。 ・関係部署と連携し、授業検討会や校内講師による学習会の内容の充実や積極的な参加を促す。	・全日聾愛知大会に関連して、例年よりも研究研修の機会を多く設定できた。 ・全職員が研究授業を行う計画を立て、随時実施した。 ・十分な時間を確保できない研修・学習会があった。内容の精選や効率的な会の運営が課題である。 ・聴覚障害に関する掲示板を整備した。次年度は、職員、生徒のタブレットを活用した情報提供も進めていく。

いじめ防止に向けた取組

部・校務	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導支援部	・いじめの早期認知に努め、組織的に対応する。	・生活アンケートの実施やカウンセリングを行い、生徒の心情の変化等を把握する。 ・集約した情報を基に関係職員と迅速に対応する	・年3回の生活アンケートを実施し、いじめ・不登校対策委員会を開催して情報の共有を図った。しかしながら、生徒の出席停止等に伴い、アンケートの集計や聞き取りに時間を要したことが課題としてあげられる。より迅速な集計や聞き取りができるようアンケート方法について検討していきたい。 ・定期的に生徒指導主事と生徒指導支援部生活係、養護教諭等を交えた情報交換会を実施し、生徒指導上の諸問題に対応した。

多忙化解消に向けた取組

部・校務	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
	・仕事の効率化や在校時間の縮小に取り組みながら、教員が自己の健康管理や働き方に対する意識を高める。	・行事等の運営について、従来通りの方法を見直し、業務を精選して実践する。 ・開錠時刻、施錠時刻を周知し、時間管理の意識を高める。	行事について会議等で検討し滞りなく進めることができた。引き続き業務の効率化が必要である。在校時間については、前年度から微減となった。時間管理意識の向上については具体的な手だてを提示できなかったため、次年度の課題である。